

# 九州の東の玄関口としての拠点化戦略会議 大分港大在地区部会報告の概要

## I 大在地区の特性

- RORO船航路として内航航路が2航路週6便、コンテナ航路として外航航路が5航路週5便発着
- 関東方面への海上航路による時間距離が短い
- 東九州自動車道へのアクセスが良好であるほか、近隣に物流関連施設向けの分譲地である大分流通業務団地が整備済



## II 環境変化

- 東九州道の開通で、福岡県及び宮崎県とのアクセスが向上
- 清水港航路の就航により、RORO船航路が週6便体制に充実
- トラック運転手の不足や労働時間の法令適用の強化でモダールシフトが進み、九州各港の関東・関西方面フェリーが大型化
- 外貿コンテナの取扱量は近年伸び悩み

## III 大在地区の課題

貨物取扱量の増加

RORO船航路の利用  
促進・便数充実

港を利用する物流施設  
や製造業等の集積

物流拠点としての機能  
強化

到着・出発貨物量の  
均衡

IV 大在地区の将来像

九州の物の流れの基幹拠点として、RORO船航路を核に、九州内外を流通する多くの貨物が取り扱われるハブ港

V 将来像の実現に向けた取組

○内航貨物の増加や航路の充実等により、大在地区が国内物流の幹線経路となることを目指す(外航貨物は港の競争力を強化)

### 1. RORO船航路の機能強化・利用促進

- 東京港航路及び清水港航路のデイリー化
- 荷主及び運送事業者への周知強化をはじめとしたRORO船航路の利用促進
- 中小運送業者のRORO船航路の利用に向けた環境整備に係る調査研究

### 2. 内航貨物の集荷推進

- 福岡、鳥栖、熊本県東部、延岡及び宮崎方面を、当面の間、重点的な対象地域に設定
- RORO船への転換可能性が高い、自動車関連品、鋼材、紙・パルプ、日用品、取合せ品、農林水産物等を重点品目に設定
- 中九州横断道路の延伸状況を踏まえ、重点対象地域を拡大

### 3. 港湾利用企業の誘致・集積

- 近傍地への物流産業、製造業等の誘致及び集積
- RORO船航路関連陸運事業者の進出のための許可を得て使用できる土地の準備
- 大分流通業務団地との一体的な誘致
- 6号C-2も含めた周辺に集積用地を確保

### 4. ポートセールスの推進

- 官民連携したポートセールス組織の設立及び県組織の充実
- 貨物集荷に向けた、荷主及び運送事業者へのセールス実施
- 物流施設の誘致に向けたセールス実施
- 3PL事業者と連携したセールス実施

### 5. インフラ整備

- 2隻同時利用可能なRORO船岸壁の整備やシャーシ置場の確保(用地が不足する場合は6号C-2も含めた周辺に確保)
- 耐震強化岸壁等による災害対策の推進
- 中九州横断道路の整備、東九州自動車道等の暫定2車線区間の4車線化の促進